


アート・プラットフォーム／アーカイブとしての美術館 シンガポール美術館（SAM）＆ナショナル・ギャラリー ー・シンガポール（NGS）

服部浩之、ジューン・ヤップ、ユージン・セン

シンガポールは、東南アジアの芸術活動を牽引する重要な都市のひとつだ。公的な美術館やアートセンターの不在が課題となることが多い東南アジアにおいて、シンガポール美術館（SAM）は1996年の開館以来、アジア美術のコレクションや同時代を体現する展覧会を精力的に実施してきた稀有な存在である。2015年にナショナル・ギャラリー・シンガポール（NGS）が開館することで、拠点としてのシンガポールの重要性はますます高まっている。アジアにおけるアート・プラットフォームとしての美術館という観点から、SAMのキュラトリアル・コレクション・プログラム・ディレクターであるジューン・ヤップ氏、そしてNGSシニアキュレーターでSAMで働いた経験もあるユージン・セン氏にお話を伺った。

 [Zoomインタビュー]アートプラットフォーム／アーカイブとしての美...



ゲスト：

ジューン・ヤップ（シンガポール美術館キュラトリアル・コレクション・プログラム・ディレクター）

ユージン・セン（ナショナル・ギャラリー・シンガポール、シニアキュレーター）

聞き手：服部浩之

収録日：2020年10月29日

関連ワード

福岡アジア美術館、クイーンズランド州立美術館 | 現代美術館